

まつさかじょうかまちいせき
松坂城下町遺跡

発掘調査期間：平成27年5月上旬～随時

所在地：松阪市本町（まつさかしほんまち）

国道42号鎌田町交差点を南進した、近鉄・JR線路の地下道建設地点

（※工事現場のため見学はできません）

位置情報URL：[三重県地図情報サービス](#) [松坂城下町遺跡発掘調査現場](#)



調査地の様子（北から）

江戸時代の松坂城下町の姿に迫る

松阪市の中心市街地は、天正16（1588）年に蒲生氏郷がもうじさとが松坂城を建設した際、松ヶ島から移転した城下町が基礎となっています。当時の城下町の様子は、文献やさまざまな絵図によって知ることができますが、考古学的な調査はまだ始まったばかりです。

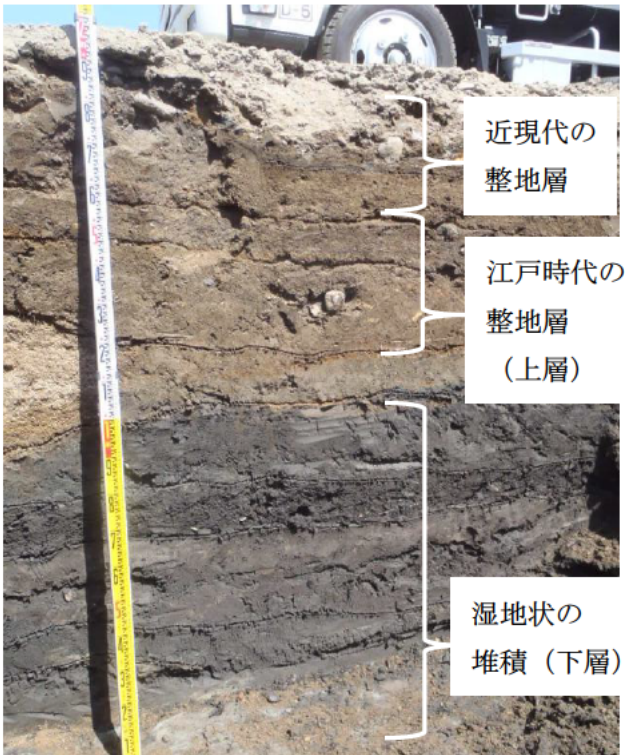
今回の調査は電線埋め込みや水路の工事と同時に行う発掘調査（工事立会調査）です。周囲の土砂が崩れて事故が起こらないよう、矢板（鋼鉄板）を打ち込みながら調査が進んでいきます。幅約1mの狭い調査区であるにもかかわらず、たくさんの陶磁器や木製品などが出土しました。

調査が始まってまだ数日ですが、その成果の第1報をお届けします。

土地利用の変遷

今回の調査地は、18世紀まで溝（水路）または湿地だったところ（下層）が、その後整地され（上層）、宅地となったようです。

こうした土地利用の変遷に関するデータを細かく集めていくのが当面の課題です。



土層の様子



江戸時代のごみ穴（上層）



黒色土（下層）から出土したすり鉢



出土した陶磁器（18世紀）

肥前、瀬戸・美濃、京都・信楽、南伊勢など、さまざまな産地の焼物があります。

たくさんの有機質遺物

下層の黒色土から、木製品や貝殻といった有機質の遺物が大量に出土しています。溝や湿地が当時のごみ捨て場だったのでしょう。注目されるのは貝殻の多さです。アワビ・サザエ・ハマグリが中心で、シジミやアサリなど小型の貝は少ないようです。

このように、土中に食物の残りかすが含まれている可能性が高いため、土を洗って魚の骨や植物の種などを探し、江戸時代の食糧事情を探っていきます。



貝殻（アワビ・サザエ・ハマグリなど）



下駄



大量の箸 全て白木の箸です。



土を洗っていきます



見つかった植物の種

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 三重県埋蔵文化財センター調査研究1課
担当者：櫻井 電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035 E-mail：maibun@pref.mie.jp